



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 44

2022.7.15

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：コンソーシアム総会／今年度事業計画採択／2021年度報告書

8月20日 信州ESDコンソーシアムの総会が開催されます

本年もコロナ対策のためオンラインで開催されます。ご予定ください。

5月26日 今年度事業計画が採択されました

「ユネスコエコパークを核としたESD／SDGs実践カリキュラム開発支援と国際交流の促進」が令和4年度ユネスコ活動費補助金：SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業に採択されました。その目的は以下のようです。

生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としたユネスコエコパーク(BR)は、SDGs達成のモデル地域であり、持続可能な開発について学ぶ場として位置づけられています。山ノ内町ほか、国内BRのユネスコスクールではSDGsを意識したESD実践事例が蓄積されつつあります。本事業ではその資産を活かし、ESD／SDGsの深化とユネスコスクールの国際交流の促進に取り組みます。これまでのユネスコスクールでの活動により、BRを活用したESD／SDGsは普及しつつあり、いくつかのBRでは深化を目指す段階にあります。また信州ESDコンソーシアムの成果発表交流会など、BR間の交流機会の創出により、BRを活用したESD／SDGs事例の収集・発信も可能になってきました。本事業ではこれらの資産をさらに発展させ、教師がみずから地域や学校の特色を生かしたESD／SDGsの学びを構想し、実践することを支援するため、教育実践に向けてのカリキュラム開発の参考となる資料の作成と発信を目指します。またESD／SDGs実践事例の国際的な発信や、信州大学のグローバル教育と連携した国際共修プログラムの開発によりBRで学ぶユネスコスクールの国際交流力の向上を図り、海外との学校間交流の実現を目指します。具体的には、



- ア 成果発表＆交流会の発表を元にESD／SDGs実践事例の紹介冊子の作成
 - イ エコパークを活用したカリキュラム開発資料の作成
 - ウ エコパークを活用したESD／SDGs実践事例の海外への発信
 - エ 留学生などへのエコパークを活用した国際共修プログラムの構築
 - オ 海外のユネスコスクールなどとの国際的な学校間交流の実現
- などで、これらの事業計画は、8月の総会にて詳細が協議されます。

※ユネスコエコパークとは：豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域です。世界での認定地域は131か国727地域、日本には10地域あり、長野県には志賀高原、南アルプス、甲武信の3地域があります。



「信州ESDコンソーシアム成果報告書2021」ができました。8月にはホームページ上にも掲載される予定です、ぜひご覧ください。



信州ESD通信

No.44 2022.7.15

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一

〒380-8544 長野市西長野6-1 口 信州大学教育学部

事務局：清水・松橋 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp